HP Universal CMDB

Windows および Red Hat Enterprise Linux オペレーティング・システム向け

ソフトウェア・バージョン: 10.00

サポート・マトリックス

ドキュメント・リリース日: 2012 年 6 月 (英語版)

ソフトウェア・リリース日: 2012 年 6 月 (英語版)

ご注意

保証

HP製品、またはサービスの保証は、当該製品、およびサービスに付随する明示的な保証文によってのみ規定されるものとします。ここでの記載で追加保証を意図するものは一切ありません。ここに含まれる技術的、編集上の誤り、または欠如について、HPはいかなる責任も負いません。

ここに記載する情報は、予告なしに変更されることがあります。

権利の制限

機密性のあるコンピュータソフトウェアです。これらを所有、使用、または複製するには、HPからの有効な使用許諾が必要です。商用コンピュータソフトウェア、コンピュータソフトウェアに関する文書類、および商用アイテムの技術データは、FAR12.211および12.212の規定に従い、ベンダーの標準商用ライセンスに基づいて米国政府に使用許諾が付与されます。

著作権について

© Copyright 2002 - 2012 Hewlett-Packard Development Company, L.P.

商標について

Adobe™は、Adobe Systems Incorporated (アドビシステムズ社) の商標です。

Microsoft®およびWindows®は、米国におけるMicrosoft Corporationの登録商標です。

UNIX®は、The Open Groupの登録商標です。

本製品には 'zlib' 汎用圧縮ライブラリのインタフェースが使用されています。'zlib': Copyright © 1995-2002 Jean-loup Gailly and Mark Adler.

ドキュメントの更新情報

このマニュアルの表紙には、以下の識別情報が記載されています。

- ソフトウェアのバージョン番号は、ソフトウェアのバージョンを示します。
- ドキュメントリリース日は、ドキュメントが更新されるたびに変更されます。
- ソフトウェアリリース日は、このバージョンのソフトウェアのリリース期日を表します。

最新の更新のチェック、またはご使用のドキュメントが最新版かどうかのご確認には、次のサイトをご利用ください。

http://support.openview.hp.com/selfsolve/manuals

このサイトを利用するには、HP Passportへの登録とサインインが必要です。HP Passport IDの取得登録は、次のWebサイトから行なうことができます。

http://h20229.www2.hp.com/passport-registration.html(英語サイト)

または、HP Passport のログインページの [**New users - please register**] リンクをクリックします。

適切な製品サポートサービスをお申し込みいただいたお客様は、更新版または最新版をご入手いただけます。詳細は、HPの営業担当にお問い合わせください。

サポート

HPソフトウェアサポートオンラインWebサイトを参照してください。

http://www.hp.com/go/hpsoftwaresupport

HPソフトウェアが提供する製品、サービス、サポートに関する詳細情報をご覧いただけます。

HPソフトウェアオンラインではセルフソルブ機能を提供しています。お客様の業務の管理に必要な対話型の技術支援ツールに素早く効率的にアクセスいただけます。HPソフトウェアサポートWebサイトのサポート範囲は次のとおりです。

- 関心のある技術情報の検索
- サポートケースとエンハンスメント要求の登録とトラッキング
- ソフトウェアパッチのダウンロード
- サポート契約の管理
- HP サポート窓口の検索
- 利用可能なサービスに関する情報の閲覧
- 他のソフトウェアカスタマーとの意見交換
- ソフトウェアトレーニングの検索と登録

一部を除き、サポートのご利用には、HP Passportユーザとしてご登録の上、ログインしていただく必要があります。また、多くのサポートのご利用には、サポート契約が必要です。HP Passport IDの登録は、次の場所で行います。

http://h20229.www2.hp.com/passport-registration.html(英語サイト)

アクセスレベルに関する詳細は、以下のWebサイトにアクセスしてください。

http://h20230.www2.hp.com/new_access_levels.jsp

目次

サポート・マトリックス 1
目次 5
サーバ・ハードウェア要件 6
サーバ・ソフトウェア要件 7
仮想環境がサポートされているサーバ 8
仮想環境における HP Universal CMDB 9
サーバ・データベース要件 9
Oracle システム要件 9
Microsoft SQL のシステム要件 11
データ・フロー・プローブ要件 12
クライアント・ソフトウェア要件 15
クライアントのブラウザの要件 16
Universal Discovery クライアント・インベントリ・ツールのソフトウェア要件 17
管理ノードとノード関連の CI 17

サーバ・ハードウェア要件

コンポーネント	要件
コンピュータ / プロセッサ	**Windows / Linux の場合：** CPU 要件を満たすために，次のいずれかが必要です。 • Intel Dual Core Xeon Processor 2.4 GHz 以上 • AMD Opteron Dual Core Processor 2.4 GHz 以上 上記の要件以外に，デプロイメントの構成に応じて，次の CPU Core 数が必要になります。 • 小規模デプロイメント:1 CPU • 標準デプロイメント:4 CPU • エンタープライズ・デプロイメント:8 CPU **注：**HP Universal CMDB パフォーマンスはプロセッサの速さに依存するため，確実に適正なHP Universal CMDB 速度性能を得るには可能な限り速いプロセッサ速度を使用することを推奨します。
メモリ	**Windows / Linux の場合：** • 小規模デプロイメント:4 GB RAM • 標準デプロイメント:8 GB RAM • エンタープライズ・デプロイメント:16 GB RAM
メモリ・スワップ・ファイル	**Windows：** • 小規模デプロイメント:6 GB(サポート対象) • 標準デプロイメント:12 GB • エンタープライズ・デプロイメント:24 GB **Linux：** • 小規模デプロイメント:4 GB(サポート対象) • 標準デプロイメント:8 GB • エンタープライズ・デプロイメント:16 GB **注：** • Windows 用の仮想メモリは，少なくとも物理メモリ・サイズの 1.5 倍以上が必要です。 • Linux スワップ・ファイルのサイズは，物理メモリ・サイズと同程度でなくてはな

コンポーネント	要件
	りません。
ハードディスク・ドライブの空き領域	最低 30 GB(ログ，メモリ・ダンプなどに使用)
ディスプレイ	**Windows の場合**：最低 256 色以上のカラー・パレット設定 (推奨:32,000 色表示)

サーバ・ソフトウェア要件

ハードウェア・プラットフォーム	OS Type	OS のバージョンとエディション	サポート	推奨
x86-64	Windows 2008	Enterprise SP2，R2 および R2 SP1(64 ビット)	はい	あり
x86-64	Windows 2008	Standard R2 および R2 SP1 (64 ビット)	あり	
x86-64	Red Hat Linux 5.x	Enterprise/Advanced(64 ビット)	あり	
x86-64	Red Hat Enterprise Linux サーバ 6.2 以上	64 ビット	あり	
x86-64	Windows 2003		なし	
x86	Windows 2008		なし	64 ビット (必須)
任意	SUSE Linux 9，10，11	エンタープライズ	なし	
Sun SPARC	Solaris 8，9 または 10		なし	
任意	Red Hat Linux 3，4	エンタープライズ	なし	
Itanium 64	Red Hat Linux 5	Enterprise/Advanced	なし	

注：

- サポート・マトリックスのスコープに曖昧な点がないように，サポートされない構成をリストします。
- Windows 2003 は UCMDB 10.00 ではサポートされていません。
- HP Universal CMDB のインストールは 32 ビットのマシンではサポートされません。

仮想環境がサポートされているサーバ

仮想環境	OS のバージョンとエディション	サポート	UCMDB デプロイメント	推奨
VMware ESXi 5.0	• Windows 2008 Enterprise SP2, R2 および R2 SP1 (64 ビット) • Windows 2008 Standard R2 および R2 SP1(64 ビット) • Red Hat Linux 5.x Enterprise/Advanced(64 ビット) • Red Hat Enterprise Linux Server 6.2 以降 (64 ビット)	あり	• 小規模 • 標準 • エンタープライズ	はい
VMware ESX 4.0, 4.1	• Windows 2008 Enterprise SP2, R2 および R2 SP1 (64 ビット) • Windows 2008 Standard R2 および R2 SP1(64 ビット) • Red Hat Linux 5.x Enterprise/Advanced(64 ビット) • Red Hat Enterprise Linux Server 6.2 以降 (64 ビット)	あり	• 小規模 • 標準	
Microsoft Hyper-V Server 2008 R2 SP1	• Windows 2008 Enterprise SP2, R2 および R2 SP1 (64 ビット) • Windows 2008 Standard R2 および R2 SP1(64 ビット) • Red Hat Linux 5.x Enterprise/Advanced(64 ビット) • Red Hat Enterprise Linux Server 6.2 以降 (64 ビット)	あり	• 小規模 • 標準	
Xen Hypervisor 3.x	任意	なし		
VMware ESX	任意	なし		

仮想環境	OS のバージョンとエディション	サポート	UCMDB デプロイメント	推奨
version 3.5 以前				
VMware ESXi 4.x 以前	任意	なし		

仮想環境における HP Universal CMDB

VMware ESX や Microsoft Hyper-V プラットフォームといった仮想環境で HP Universal CMDB をデプロイする場合は，通常のインストールのサイズ変更ガイドラインは適用されません。次の一般的な制限事項と推奨事項は，UCMDB サーバのインストールまたは仮想環境に適用されます。

- 仮想環境での HP Universal CMDB のパフォーマンスは，通常インストールよりも遅くなることが予想されます。したがって，一部の仮想環境は HP Universal CMDB のエンタープライズ・デプロイメントには推奨されず，標準デプロイメントのみでサポートされます。各仮想プラットフォームでサポートされる UCMDB デプロイメント・タイプについては8ページ「仮想環境がサポートされているサーバ」を参照してください。デプロイメントの要件については，6ページ「サーバ・ハードウェア要件」を参照してください。
- HP Universal CMDB の機能とパフォーマンスは，HP Universal CMDB コンポーネントに割り当てられている CPU，メモリ，ネットワーク大域幅などのさまざまなサーバ・リソースによって異なります。
- ギガビット・ネットワーク・カードを使用しなければなりません。
- データベース・ファイルが仮想環境の仮想ディスクにある場合は，仮想環境上の HP Universal CMDB データベースが含まれるデータベース・サーバを実行しないことを強くお勧めします。

UCMDB サーバでサポートされる仮想プラットフォームの完全な一覧については，8ページ「仮想環境がサポートされているサーバ」を参照してください。

Data Flow Probe でサポートされる仮想環境の完全な一覧については，12ページ「データ・フロー・プローブ要件」を参照してください。

サーバ・データベース要件

本項では，HP Universal CMDB との連携をサポートしているデータベース・サーバについて説明します。

本項の内容

- 9ページ「Oracle システム要件」
- 11ページ「Microsoft SQL のシステム要件」

Oracle システム要件

次の表に，HP Universal CMDB との連携がサポートされている Oracle サーバを示します。サポートされているオプションとは，HP の品質保証担当者により基本的なテストが正常に実施されたオプションのことを意味します。

データベース・バージョン	エディション	システム・タイプ	サポート対象製品
Oracle 10.2.0.4 以上	• エンタープライズ	64 ビット	• UCMDB • 構成マネージャ
Oracle 10.2.0.4	• RAC エンタープライズ	64 ビット	• UCMDB • 構成マネージャ
Oracle 11.2(11g R2)	• エンタープライズ • RAC エンタープライズ	64 ビット	• UCMDB • 構成マネージャ
Oracle 11.2(11g R2)	• 標準	64 ビット	UCMDB のみ (構成マネージャはサポートされていません)

注：

- ご使用のオペレーティング・システムに最新の重要な Oracle パッチを適用することを強くお勧めします。詳細については，Oracle ドキュメントを参照してください。
- サポートされるプラットフォームの詳細については，Oracle ドキュメントを参照してください。
- Oracle サーバの Standard Edition は，UCMDB 構成マネージャ・コンポーネントなしでデプロイされている場合に HP Universal CMDB サーバのサポート対象となります。
- HP Universal CMDB サーバが UCMDB 構成マネージャ・コンポーネントとともにデプロイされている場合は，Oracle の Enterprise Edition および Oracle Partitioning オプションが必要となります。
- UCMDB サーバを，(プロキシおよびファイアウォールが設定されていない) データベース・サーバと同じ LAN に配置することを強く推奨します。そうしない場合，システムのパフォーマンスに影響が出る可能性があります。そうしなければ，システムのパフォーマンスに影響がある可能性があります。
- 過去に HP Universal CMDB サーバを Oracle 11.2 の Standard Edition とともにデプロイしている場合で UCMDB 構成マネージャ・コンポーネントをインストールに追加したい場合は，まず Partitioning オプションを有効化して Standard Edition のデータベースを Enterprise Edition のデータベースに変換する必要があります。
- 10.2.0.5 以前の Oracle バージョンを使用している場合，Oracle 不具合番号 5866410 を修正する Oracle パッチを適用しなければなりません。詳細については，Oracle の Web サイトでこの不具合番号に関連した情報を確認してください。

テスト済みデプロイメントの例

次の表に，HP の品質保証担当者が厳しいテストを実施したデプロイメント環境の詳細を示します。

データベース・リリース			オペレーティング システム
バージョン	エディション	システム・タイプ	
Oracle 11.2(11g R2)	エンタープライズ	64 ビット	Red Hat Enterprise Linux 5
Oracle 11.2(11g R2)	RAC エンタープライズ	64 ビット	Red Hat Enterprise Linux 5
Oracle 10.2.0.4	エンタープライズ	64 ビット	Red Hat Enterprise Linux 5

Microsoft SQL のシステム要件

次の表に，HP Universal CMDB との連携がサポートされている Microsoft SQL Server を示します。サポートされているオプションとは，HP の品質保証担当者により基本的なテストが正常に実施されたオプションのことを意味します。

データベース・バージョン	エディション	システム タイプ	サービス・パック	サポート対象製品
Microsoft SQL Server 2008	• 標準 • エンタープライズ	32 ビットまたは 64 ビット	SP2，SP3	• UCMDB • 構成マネージャ
Microsoft SQL Server 2008	• 標準 • エンタープライズ	64 ビット	R2 SP1	• UCMDB • 構成マネージャ
Microsoft SQL Server 2008 Failover Cluster	• エンタープライズ	64 ビット	• SP2 • SP3 • R2 SP1	• UCMDB • 構成マネージャ

注：

- サポートされているサービス・パックのみをインストールし，最新のパッチを適用してください。
- サポートされるプラットフォームの詳細については，Microsoft ドキュメントを参照してください。
- SQL Server 2008 Service Pack 2 のサポートは 2012 年 10 月で終了します。今後の UCMDB サービスパックでは SQL Server 2008 SP2 はサポートされません。
- Microsoft SQL Server 2008 Failover Cluster は小規模または標準的な UCMDB デプロイメントのみをサポートします。

テスト済みデプロイメントの例

次の表に，HP の品質保証担当者が厳しいテストを実施したデプロイメント環境の詳細を示します。

データベース・リリース バージョン	エディション	システム タイプ	サービス パック	オペレーティング システム
Microsoft SQL Server 2008	エンタープライズ	64 ビット	SP3	Windows 2008 Enterprise Edition Service Pack 2 (64 ビット)

データ・フロー・プローブ要件

ハードウェア要件

コンピュータ / プロセッサ	**推奨:**最新世代の Intel/AMD プロセッサ(Intel Xeon CPU または同等製品) および可能な限り高速な処理速度 **標準 :** 4 コア **エンタープライズ :** 8 コア
メモリ	**標準 :** 4 GB RAM **エンタープライズ :** 8 GB RAM
メモリ・スワップ・ファイル	**Windows :** • **標準 :** 6 GB RAM • **エンタープライズ :** 12 GB RAM **Linux :** • **標準 :** 4 GB RAM • **エンタープライズ :** 8 GB RAM **注 :** • Windows 用の仮想メモリは, 必ず物理メモリ・サイズの 1.5 倍以上必要です。 • Linux スワップ・ファイルのサイズは, 物理メモリ・サイズと同程度でなくてはなりません。
ハードディスク・ドライブの空き領域	**標準 :** 100 GB(**注** :100 GB のディスク領域のうち 75 GB はスキャン・ファイル用に必要) **エンタープライズ :** 200 GB(**注** :200 GB のディスク領域のうち 150 GB はスキャン・ファイル用に必要)

ディスプレイ	**Windows / Linux の場合：**最低 256 色以上のカラー・パレット設定 (32,000 色表示を推奨)

注：

- 標準デプロイメントでは，週に 2 回の 25000 ノードのスキャナ・ベースのインベントリまたは毎日のアプリケーション依存関係マッピングのための 5000 ノードの検出がサポートされます。
- エンタープライズ・デプロイメントでは，週に 2 回の 50000 ノードのスキャナ・ベースのインベントリまたは毎日のアプリケーション依存関係マッピングのための 10000 ノードの検出がサポートされます。
- その他のスキャナ・ベースのインベントリ/ノードおよびアプリケーション依存関係マッピング検出ノードの組み合わせも，次の式に従ってサポートされます。[インベントリ・ディスカバリ・ノード数] + [アプリケーション依存関係マッピング・ノード数] × 5 が 25000 以下 (標準デプロイメントの場合) または 50000 回以下 (エンタープライズ・デプロイメントの場合)。例えば，標準デプロイメントでは 15000 インベントリ・ディスカバリ・ノードおよび 2000 のアプリケーション依存関係マッピング・ノードがサポートされます。

ソフトウェア要件

ハードウェア・プラットフォーム	OS Type	OS のバージョンとエディション	サポート	推奨
x86-64	Windows 2008	SP2，Standard/Enterprise Edition，64-bit	はい	
x86-64	Windows 2008	R2 および R2 SP1，Standard/Enterprise Edition，64-bit	あり	あり
x86-64	Red Hat Linux 5.x	Enterprise/Advanced(64 ビット)	あり	
x86-64	Red Hat Enterprise Linux サーバ 6.2	64 ビット	あり	
	Windows 2008	SP2，Standard/Enterprise Edition，32-bit	なし	
	Windows 2003	SP2 および R2 SP2，Standard/Enterprise Edition，32-bit または 64-bit	なし	
	Windows 7	Professional / Enterprise	なし	
	Windows 2000		なし	

注：

- Windows 2003 は UCMDB 10.00 ではサポートされていません。
- UCMDB 10.00 では，Data Flow Probe は 64 ビット・プラットフォームのみをサポートしています。
- Linux プラットフォームの場合，検出ではなく統合のみがサポートされます。詳細については，『HP Universal CMDB データ・フロー管理ガイド』の「モジュール/ジョブベースのディスカバリ・ワークフロー」を参照してください。

サポート対象データベース

データベース	バージョンとエディション	推奨	コメント
MySQL	5.5.20	はい	このデータベースはプローブのインストールにバンドルされています。
MySQL ドライバ	5.1.16	はい	このドライバはプローブのインストールにバンドルされています。

仮想環境の要件

プラットフォーム	OS のバージョンとエディション	サポートされている	推奨
VMware ESXi 5.0	• Windows 2008 Standard/Enterprise SP2，R2 および R2 SP1(64 ビット) • Red Hat Linux 5.x Enterprise/Advanced(64 ビット) • Red Hat Enterprise Linux Server 6.2 以降 (64 ビット)	あり	はい
VMware ESX 4.0, 4.1	• Windows 2008 Standard/Enterprise SP2，R2 および R2 SP1(64 ビット) • Red Hat Linux 5.x Enterprise/Advanced(64 ビット) • Red Hat Enterprise Linux Server 6.2 以降 (64 ビット)	はい	
Microsoft Hyper-V Server 2008 R2 SP1	• Windows 2008 Standard/Enterprise SP2，R2 および R2 SP1(64 ビット) • Red Hat Linux 5.x Enterprise/Advanced(64 ビット) • Red Hat Enterprise Linux Server 6.2 以降 (64 ビット)	はい	
VMware ESX 3.5 以前	すべてのプラットフォーム	なし	

プラットフォーム	OS のバージョンとエディション	サポートされている	推奨
VMware ESXi 4.1 以前	すべてのプラットフォーム	なし	
Xen Hypervisor 3.x	すべてのプラットフォーム	なし	

パッシブ・ディスカバリの統合

HP Real User Monitor(HP RUM) バージョン 9.20 以降は，パッシブな Just-In-Time 検出を実行するために，別サーバにインストールし，実行中の状態にし，Data Flow Probe と統合されるように設定する必要があります。

HP RUM Installation は，HP Software Support Online (http://support.openview.hp.com/selfsolve/patches) からダウンロード可能です。［**Application Performance Management (BAC)**］で［**Real User Monitor**］を検索します。

クライアント・ソフトウェア要件

画面解像度	必要最低解像度：1024x768。1280x1024 を使用することを推奨します。ワイド画面 (15.4 ラップトップなど) に最適な解像度は,1600x1050 です。
Java 実行環境 (アプレット表示用)	• **1.6 ファミリ。** バージョン 6u10 以降。アプレットのロード毎にポップアップが現れ，アプレットに署名コードと非署名コードが混在していることを示すメッセージが表示されるため，6u19 はお勧めしません。 • **7 ファミリ** **注 :**推奨の JRE バージョンは 1.7u02 です。ローカル・ネットワークでのダウンロードをできるように，UCMDB サーバにも含まれています。 **ローカルで使用される JRE を変更するには，次の手順を実行します。** 1. 新規の JRE デプロイメント実行ファイルを次の場所に配置します。**C:\hp\UCMDB\UCMDBServer\deploy\ucmdb-ui\static\JRE** 2. サーバを再起動します。 Microsoft Internet Explorer を使用している場合は，Java Web サイト (**http://java.com/**)から Sun JRE をダウンロードできます。 インストール後，ブラウザが Java の正しいバージョンを使用していることを確認します。［**ツール**］>［**インターネット オプション**］>［**詳細**］タブをクリックし，［**Java (Sun)**］チェック・ボックスを選択します。[**OK**] をクリックしてブラウザを閉じ，もう一度開きます。
Java のキャッシュ	クライアントコンピュータで Java のキャッシュを有効にします。［**Control Panel**］>［**Java**］>［**General tab**］>［**Temporary Internet Files**］>［**Settings** >［**Keep temporary files on my computer**］
アプレット タグのサポート	UCMDB アプレットは，アプレット タグのデプロイメントのみサポートしています。 クライアント・マシンがアプレット・タグをサポートしているかどうかを確認するには，Java コントロール・パネルを開きます。[**詳細**]タブをクリックして，[**ブラウザのデ**

	フォルトの Java]を開きます。Microsoft Internet Explorer が選択されていることを確認します。
Adobe Flash Player (レポート内のグラフの表示)	バージョン 10.x および 11
Microsoft Excel (エクスポートしたデータを表示するため	Versions 2007 および 2010
Adobe Reader (エクスポートしたデータを表示するため)	Versions 9 および 10

クライアントのブラウザの要件

ブラウザ	OS のバージョンとエディション	サポート	推奨
Windows Internet Explorer 7	サポートされるプラットフォームの詳細については，Microsoft ドキュメントを参照してください。	はい	
Windows Internet Explorer 8	サポートされるプラットフォームの詳細については，Microsoft ドキュメントを参照してください。	はい	
Windows Internet Explorer 9	サポートされるプラットフォームの詳細については，Microsoft ドキュメントを参照してください。	はい	あり
Google Chrome	Microsoft Windows の場合のみサポート。サポートされるプラットフォームの詳細については，Google Chrome ドキュメントを参照してください。	はい	
Firefox 10 以上	Microsoft Windows の場合のみサポート。サポートされるプラットフォームの詳細については，Firefox ドキュメントを参照してください。	あり	
Safari 4.x	Windows	なし	
Internet Explorer 6	Windows	なし	
Firefox 3.5，4，5，6，7，8，9	任意	なし	

Universal Discovery クライアント・インベントリ・ツールのソフトウェア要件

次のテーブルには，Universal Discovery クライアント・インベントリ・ツールのソフトウェア要件を示しています。

- SAI エディタ
- ビューア
- Analysis Workbench

ハードウェア・プラットフォーム	OS Type	OS のバージョンとエディション	サポート
x86 または x86-64	Windows XP	任意	はい
x86 または x86-64	Windows Server 2003	任意	はい
x86 または x86-64	Windows Server 2003 R2	任意	はい
x86 または x86-64	Windows Server 2008	任意	はい
x86-64	Windows Server 2008 R2	任意	はい
x86 または x86-64	Windows Vista	任意	はい
x86 または x86-64	Windows 7	任意	はい

注：

- ファイルがロックする問題が発生する恐れがあり，インベントリ・ツールを Data Flow Probe を実行しているコンピュータと同じコンピュータにインストールすることは推奨されません。
- 個別マシンのインベントリ・ツールをインストールする場合，ハードウェア要件は最小スピード 1.5 Ghz および 4 GB RAM のデュアル・コア CPU となります。

管理ノードとノード関連の CI

容量計画を行う場合，最も考慮すべき事項は CMDB の管理ノードとノード関連 CI の比率です。ノード関連 CI には，Application Resource，Node Element，または Running Software のサブクラスである，すべての CI タイプが含まれます。

次の表に，環境内の各管理ノードで検出可能なノード関連 CI の数を一覧表示します。この数は，デプロイメントのサイズと管理ノード数に依存します。CMDB 内に保持している管理ノードが多ければ，各管理ノードに検出可能なノード関連 CI は少なくなります。

たとえば，エンタープライズ・デプロイメントにおいて，89,600 の管理ノードを実行している場合，各管理ノードに 160 のノード関連 CI を検出できます。管理ノードを 28,000 だけ実行している場合は，各管理ノードに 500 のリソース CI を検出できます。

デプロイメント	管理ノード / ノード関連 CI の数
エンタープライズ	89600/160 – 28800/500
標準	9000/160 – 3000/500
小規模	4500/160 – 1000/500

注： この表の数値は CI の数で，関係性は加味されていません。

Java™
COMPATIBLE